

RETAILER ACADEMY NEWS

Sep 2021 | Bentley Motors Japan

モントレイ カー ウィークで 新型6車種を初めて公開



ベントレー モーターズは、このほど、米国で開催されたモントレイ カー ウィーク 2021 で6種類の新モデルを初めて公開し、米国でのイベントで大成功を収めました。ベントレーの最新モデルと「Beyond 100」戦略を紹介する4日間の展示会は、CDC（米国疾病予防管理センター）のガイドラインに則って、ゲストとスタッフに対する万全の感染対策を講じたうえで実施されました。「ホーム・オブ・ベントレー」では、マリナーの3つのポートフォリオ（クラシック、コーチビルド、コレクション）が手掛けたモデルが初めて一堂に会したほか、フライングスパー ハイブリッドとベンティガ ハイブリッドを含む新しいハイブリッド シリーズも公開されました。

ホーム・オブ・ベントレーには、期間中に2,500人を超えるベント

レーのお客様や愛好家が来場。そのうち100人が最新モデルを試乗しました。ここでは毎日異なるラインアップの展示が行われたほか、Beyond 100を詳細に説明するディスプレイも設置されました。このディスプレイは、バイオ燃料に対応したコンチネンタルGT3 パイクスピークを中心に、開発中のサステイナブルな素材や、カーボンニュートラルと気候変動への対応を実現するためのベントレーの道筋に関する情報が展示されました。

今回のもう1つの目玉は、ベントレーのダイバーシティ&インクルージョンの考え方を示した特別塗装のフライングスパー「ユニファイングスパー」です。車体のアートワークはベントレーのデザイナーのリッチ・モリスが担当。ベントレーの献身的な同僚のネットワークを称えらるとともに、2025年までに管理職レベルでのダイバーシティを30%

に高めることを目標としています。

ベントレー アメリカの社長兼CEOのクリストファー・ジョージは、「2019年にペブルビーチで創業100周年を祝って以来、再びモントレイに戻ってこられたことをとても嬉しく思います。パンデミックへの対応を行いつつ、私たちは徹底的にモダンで多様な新モデルのラインアップを拡充させることで、お客様に喜んでいただくことを選びました。久しぶりにお客様と直接お会いできたことは、誰にとっても素晴らしい経験となりました。モントレイ カー ウィークはベントレーにとって年間行事のハイライトであり、ベントレー史上最も好調な業績を上げ続けている今年は特別なものでした」などとコメントしています。



人気のヘリテージカラーも復活 NISSAN GT-R 2022年モデル

日産自動車は、NISSAN GT-Rの2022年モデルと、特別仕様車「NISSAN GT-R Premium edition T-spec」、「NISSAN GT-R Track edition engineered by NISMO T-spec」を2021年9月14日に発表しました。

SUMMARY

- 2021年4月に先行公開されたNISSAN GT-R NISMOと同Special editionに続く2022年モデルの発表
- カタログモデルのラインアップは従来と同じ4種類。価格も変更なし
- GT-Rの「Premium edition」と「Track edition engineered by NISMO」には特別仕様車の「T-spec」を設定
- 「T-spec」の名は、時代を牽引する「Trend Maker」、しっかり路面を捉える「Traction Master」から命名したもの
- 「T-spec」は両モデルあわせて100台限定の抽選販売。抽選の申込期間は9月15日から9月29日までの2週間
- 2021年10月下旬より販売開始



NISSAN GT-R Premium edition T-spec

- 専用カーボンセラミックブレーキ、カーボン製リアスポイラー、専用エンジンカバー、専用パッチを特別装備
- 専用内装色コーディネーション、アルカンターラを採用したインパネおよびサンバイザーなどの専用インテリアを設定
- GT-R NISMOと同じ専用レイズ製アルミ鍛造ホイール（ブロンズ）の採用により、バネ下重量を14kg軽量化
- 専用のサスペンションセッティングとホイールリム幅拡大によるタイヤの高剛性化により、軽快でスムーズなハンドリングを実現
- 「T-spec」のボディカラーには、新色として「ミッドナイトパープル」と「ミレニアムジェイド」を追加



NISSAN GT-R NISMO/NISSAN GT-R NISMO Special edition

- 2021年4月に先行公開。8月の価格発表を前に予約注文の台数が予定販売数を超えたため、オーダー受付を終了
- ボディカラーにNISMO専用新色の「NISMOステルスグレー」を設定
- 特別仕様車の「NISSAN GT-R NISMO Special edition」2022年モデルには以下の専用装備を設定
 - クリア塗装を施したNISMO専用カーボン製エンジンフード（NACAダクト付）
 - ピストンリング、コンロッド、クランクシャフトなどに高精度重量バランスエンジン部品を採用
 - 20インチの専用レイズ製アルミ鍛造ホイールへのレッドリム加飾追加



NISSAN GT-R Track edition engineered by NISMO T-spec

- 専用カーボンセラミックブレーキ、カーボン製リアスポイラー、専用エンジンカバー、専用パッチを特別装備
- 専用カーボン製ルーフ、カーボン製トランクリッド（トリムレス、本革プルストラップレス仕様）を特別装備
- カーボン製パーツの採用により、車両全体で18kgの軽量化を実現
- カーボンブレーキの採用によるバネ下重量の大幅な軽減などにより、最新のGT-R NISMOと同等の操縦安定性とブレーキ性能を実現
- 新色の「ミッドナイトパープル」は歴代のGT-Rに採用してきた色の進化版。「ミレニアムジェイド」はR34 GT-Rのファイナルモデルと同じ色味を忠実に再現



PRICE

GT-R Pure edition:	10,828,400円（税込）
GT-R Black edition:	12,772,100円（税込）
GT-R Premium edition:	12,329,900円（税込）
GT-R Premium edition T-spec:	15,904,900円（税込）

GT-R Track edition engineered by NISMO:	14,636,600円（税込）
GT-R Track edition engineered by NISMO T-spec:	17,881,600円（税込）
GT-R NISMO:	24,200,000円（税込）
GT-R NISMO Special edition:	24,640,000円（税込）

COMPETITOR INFORMATION



2代目NSXの集大成 ホンダ NSX Type S

本田技研工業は、スーパースポーツモデル「NSX」のファイナルモデルとなる「NSX Type S」を2021年8月3日に世界初公開。8月30日に詳細について発表しました。

SUMMARY

- 2016年8月に発表した2代目NSXの実質的なファイナルモデル
- 2021年9月2日にNSX PERFORMANCE DEALERにて申込開始
- 全世界で350台の販売を予定。日本国内向けには2022年7月に30台限定で発売予定



TECHNOLOGY

- 独自の3モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID SH-AWD®」はそのままに、エンジンのさらなる出力向上を実現
- IPU（インテリジェントパワーユニット）のバッテリー出力と使用可能容量の拡大により、システム全体の出力・トルクを大幅に向上
- システム最高出力は581psから610psに、システム最大トルクは646Nmから667Nmに向上
- 減速時などで瞬時に適切なギアにシフトダウンできるパドルホールド・ダウンシフトを初採用
- フロント19インチ、リア20インチの専用タイヤと、専用鍛造アルミホイールによるワイドトレッド化により、サーキット走行時の限界性能とコントロール性を向上
- 4つの走行モードが選択可能な「インテグレートッド・ダイナミクス・システム」は、制御の見直しにより各モードを最適化

EXTERIOR

- 新デザインの前後バンパーを採用
- ボディカラーはホンダ初のマットカラー「カーボンマットグレー・メタリック」を含む全10色を用意
- イメージカラーの限定色「カーボンマットグレー・メタリック」は完売

INTERIOR

- シートはカラーバリエーションを一新。新たにNSXロゴの刺繍入りヘッドレストを採用
- Type S専用ロゴを施したグローブボックスを採用



PRICE

NSX Type S: 27,940,000円（税込）

ENVIRONMENT

ベントレーが自動車業界で初めて レザー ワーキング グループに加盟

ベントレー モーターズはこのほど、国際的な非営利団体「レザー ワーキング グループ」に自動車メーカーとして初めて加盟しました。これはBeyond 100戦略の一環で、製品と素材の環境持続性の向上に向けた取り組みにさらに注力していくことになります。

レザー ワーキング グループは2005年に設立。皮革製造業者、取引業者、サプライヤー、技術的な専門家、ブランドや小売業者などで構成されており、ファッションやアクセサリ、フットウェアから家庭用品、インテリア、そして今ではラグジュアリーカーに至るまでさまざま

な業界を代表しています。皮革産業の環境パフォーマンス向上を目指し、レザー ワーキング グループは、明確なベストプラクティスのベンチマークと厳格な監査基準に照らし合わせて皮革製造業者を監査します。ベントレーは完全に承認された法人メンバーとなったため、2022年初めまでに、すべてのレザーについてレザー ワーキング グループの監査プロセスを正常に完了したサプライヤーやレザーのなめし業者から調達することを目指しています。最終的には、持続的に改善を行う企業文化を通じ、それぞれのサプライヤーがレザー ワーキング グループのゴールドスタンダード賞を獲得することを目指しています。

ベントレー モーターズの調達部門の責任者であるマーク・クークは、「レザーの使用とコーチビルディングは、私たちの100年の歴史の特徴です。クラシックベントレーの多くがオリジナルのインテリアのまま存在しているという事実は、レザーという私たちのコア素材の寿命の長さと固有の持続可能性を示しています。レザー ワーキング グループのメンバーとしては初の自動車メーカーであるので、他のメンバーと協力し、自動車のセクターで持続可能な方法で調達されたレザーの未



来を積極的に形作るのを楽しみにしています」などとコメントしています。



バカラルとブロワーの 最初のお客様向け車両が完成

ベントレーのビスポーク部門であるマリナーはこのほど、最高峰のハンドクラフトのオーダーメイド プロジェクトで最初のお客様向け車両を完成させました。それぞれが12台限定のシリーズ最初のクルマで、バカラルの第1号車はマリナーの新しいコーチビルディングのバルケッタとして初めてお客様に納車されます。一方、ブロワーの第1号車は、ベントレー・ボーイズとして知られるヘンリー・“ティム”・バーキン卿が愛した1929年製スーパーチャージャー付き4 1/2リッター「ブロワー」をミリ単位で正確に再現したもの。戦前の車両を蘇らせる世界初のコンティニュエーションシリーズの最初の納車となります。

お客様向けの車両は、ベントレーで「カー ゼロ」と呼ばれるプロトタイプに準拠して製造されます。プロトタイプはさまざまな場所で耐久性、パフォーマンス、耐候性の厳しいテストを完了し、双方のプロジェクトのエンジニアリングが正式に承認され、お客様向け車両の製造が開始されることになりました。



Blower Car One

ブロワー 1号車

ブロワー コンティニュエーション シリーズ初の車両は、完璧に実行されたクラシック デザインの輝かしい事例です。ボディは時代に合わせて Rexine 社製の人工皮革で縁取られ、ボディカラーにはオリジナルのブロワー（チームカー No.2、車体番号 UU 5872）の色を再現した特注のパーキン グリーンが採用されています。このオリジナル車両は、バーキン卿が製造・所有し、数々のレースに出走した車です。これを忠実に再現した第1号車は、コンティニュエーション シリーズにとってふさわしいスタートとなりました。パーキン グリーンのボディは、同色のワイヤーホイールで補完され、さらに同色のレザーがインテリアに採用されています。なお、折りたたみ式のルーフは、ブラックです。



メカニズムの点でも1号車はバーキン卿のオリジナルと同じですが、安全性に関する重要な2つの機能において相違点があります。1つは最新の電動燃料ポンプと燃料タンクのフォームバップルです。2つ目は、オリジナルのダイナモを改良したダイナメーターの追加です。オリジナルのダイナモの外観を維持しながら、よりパワフルで信頼性の高い充電システムを採用しました。エンジンはW.O.ベントレーが設計した4.5リッターを完全再現した新品で、アルミニウムピストン、オーバーヘッドカムシャフト、4バルブ・ツインスパークプラグの仕様となっています。



Bacalar Car One

バカラル1号車

ブロワーと並び、バカラルの1号車も完成しました。カーボンファイバー製のボディは、お客様のご要望でビスポークカラーであるアトム シルバーを採用。シャンパン色を帯びたサテンシルバーです。22インチのバカラル専用ホイールは、ポリッシュ仕上げのフェース、サテン ダークグレーのスポーク、グロス モスグリーンのアクセントが施されています。モスグリーンのアクセントは、フロントグリルのセンターバー、ヘッドランプ内側、ボディ上部のクロームサラウンド、リアのパワーハンプ周辺にも施されています。グロスブラックのアクセントは、Aピラー、グリルのメッシュ&サラウンド、ボンネットベント、サイドベント、ローワーボディ、リアバンパー インサート、ブレーキキャリパーに施されています。インテリアも同様にブラック&グリーンのテーマを踏襲しています。ペルーガのレザーにモスグリーンのアクセントを配し、バカラル専用のキルティングパターンコントラストステッチがキャビン全体に施されています。フェイスパネルはオープンポア リバーウッド×グロスブラックで、サテンブロンズのディテールを施し、特別なキャビンを演出しています。



その他の仕様

- ブロンズアクセント（ステアリング、ヘッドレストベゼル、ブルズアイベント）
- サテン ニッケル仕上げの車載クロックとローテーション ディスプレイのダイヤルフェイス
- ブラックアルマイト仕上げの車内のブライトウェア
- ブライトクローム仕上げのベントレー ウイング
- グロスブラック仕上げのスピーカーグリル
- ビスポークのラゲッジ（ペルーガにモスグリーンのエンブレム刺繍とキルティング）

マッカラン エステートに専用仕様の ベンティガ ハイブリッドを納車



ベントレー モーターズはこのほど、スコッチ ウィスキーの老舗であるマッカラン エステートに、ビスボークで仕上げたマッカラン専用仕様のベンティガ ハイブリッドを納車しました。今回のベンティガ ハイブリッドの納車は、先に発表されたベントレーとマッカランの長期パートナーシップに基づくもので、今後はフライングスパー ハイブリッドの納車も予定されています。

このベンティガ ハイブリッドは、マッカラン エステートでのエクスクルーシブな体験とVIPの送迎に利用され、静かで持続可能なラグジュアリー空間を提供。この車両の充電は、エステート内に新たに設置した充電ポイントで行われますが、そこで提供される電力は、スコットランドのウォードロー・ウッド・ウインド・ファームで発電され、100% REGO 認証（再生可能エネルギー発電源証明）を受けた再生可能電力です。

エクステリアはエステートに調和するビリディアンで、ブラックライン スペシフィケーションを採用。ホイールはマリナー ドライビング スペシフィケーション専用のブラックペイント&切削光輝仕上げ22インチホイールが装着されています。インテリアも同じコンセプトに基づき、ポーボイズ×カンブリアングリーンのレザーに、マッカランのスコッチの美しい色合いとマッチするリキッドアンバーのウッドパネルという組み合わせとなっています。

スピーカーズ・フォー・スクールと提携し デジタルでの就業体験を提供



新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、従来のような実地での就業体験の機会が制限されているなかで、ベントレー モーターズは、ソーシャルモビリティの慈善団体スピーカーズ・フォー・スクールと提携し、500人以上の若者にデジタルでの代替手段を取り入れたバーチャル就業体験を提供しました。STEM分野（Science、Technology、Engineering、Mathematics：科学、技術、工学、数学）に関心のある英国内の学生を対象としたこの職業体験は、エンジニアリングからデジタルまでさまざまな分野に焦点をあてています。より多くの女子学生や英国籍以外の学生にも自動車業界でのキャリアを検討してもらうことを目的としたアーリーキャリア支援プログラムの一環で、ベントレーでダイバーシティ&インクルージョンを推進するスタッフがサポートします。職場体験セッションでは、ベントレーの社員が学生たちに「未来の車」のデザインという課題を与え、革新的なアプローチ、独創的なデザイン、細部にまで気を配りながら素早く作業を行ったイェン・リーさんが優勝しました。

アーリーキャリア マネージャーのトム・ラッセルは、「アーリーキャリア支援は、私たちのダイバーシティ&インクルージョン プログラムの重要な部分で、長期的には将来の人材パイプラインをより多様な候補者で満たすことを目標に、自動車業界での幅広い機会をより多くの人々にアピールすることを目指しています」などとコメントしています。

ベントレー コレクションの 再販含む新作をリリース



ベントレー コレクションから、法的な問題がクリアになったことで再び注文可能となった製品などを含む新商品が発表されました。このうち何点かをご紹介します。価格はいずれもメーカー希望小売価格（税込）です。

テクニカルベースボールキャップは、“B”ロゴのラバープリントをフロントに、同系色のカーボンファイバー調ファブリックをシールド裏面に施しています。カラーはベルーガ、ホワイト、ダークサファイア（各¥4,290）と、ブラック&シルバー（¥4,950）をご用意しています。

ストライプ ポロシャツは、クラシックなストライプの快適なジャージーコットン製で、ル・マンとユニオンフラッグのバッジが控えめながらもモダンな印象を与えています。メンズ

（¥13,750）とレディース（¥12,980）の展開です。

他にもダイヤモンドキルティングからヒントを得たダイヤモンドステッチ ジャカード パターンのダイヤモンド タイ（グレー、ブルー、パーガンディの3色：各¥11,550）、水彩画のようなタッチでプロワーを描いたウォーターカラー スカーフ（オレンジ、ブルー：各¥19,140）、洗練されたグレー・ホワイト・シルバーのエスプレッソ セット（磁器製カップ&ソーサーのセット：¥8,140）などもご用意しています。

なお、モータースポーツ コレクションについては、ベントレーの公式ライセンスパートナーであるBrand&社を通じて入手可能です。モータースポーツのアパレル製品を含むすべての製品について、リテーラーの皆様からのご注文は、Brand& Bentley Motorsport B2B e コマーストア (<https://www.bentleymotorsportb2bstore.com/>) から注文可能です。モータースポーツ コレクションの製品は、ベントレー モーターズのパーツシステムを通じての注文はできませんのでご注意ください。



各分野の「プロ」が語るベントレー BE AT TOKYO CEO：土井地博氏



ベントレー モーターズ ジャパンのウェブサイトでは現在、各分野の「プロ」の目にベントレーがどのように映っているのかをお聞きしたインタビューを掲載しています。今回は、BE AT TOKYOのCEOでBEAMS執行役員コミュニケーションディレクターの土井地博氏の記事を簡潔にご紹介します。

「ブランド」とは果たして何なのか。そんな問いかけで始まるこの記事の冒頭で、土井地氏は「ブランドに至るものと至らぬものの違いは『品格の有無』。この場合の品格は時間を作る価値が付加されている状態」という持論を披露。すべてのプロダクトが「ぽっと出」として登場するが、「時の洗礼」という難敵に打ち勝つことができたのか。打ち勝てたとしたら、誰がそれを支えたのか、支えた人たちはどんな生き方をしていたのか、という要素の如何によってブランドが形作られると土井地氏は続けています。

そういった観点から、土井地氏は「ベントレーはまさに“ブランド”だ」と語ります。ベントレーの愛好家として知られる「白洲次郎」「伊丹十三」という近現代を代表する最高峰の粋人を引き合いに出し、「現世における最高レベルの人たちが、最後にたどりついたクルマだった—ということ」と話し、誰に愛されたかという観点を持つと、物事はわかりやすくなるはずだとしています。

このインタビュー時に土井地氏が見たのはコンチネンタルGTコンバーチブル。特に内装ではオルガンストップに注目し、「ベントレーというブランドが時間と品格の関係性に対して大いに意識的であることが見て取れる」と絶賛しています。長い間ブランドコミュニケーションに携わってきた土井地氏が、ベントレーというブランドの本質をどのように見極めたのかは、ぜひ全文をご覧ください。

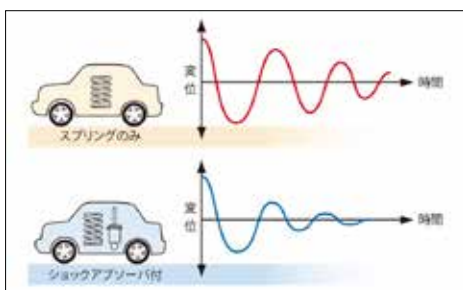
ダンパー（ショックアブソーバー）は何をしているのか

ダンパー（ショックアブソーバー）は、一見すると、ただの棒のように見える部品です。
しかし、クルマの乗り心地や操縦安定性などに深く関係しており、そのセッティングひとつで、クルマの走りは大きく変化します。
今回は、そんなダンパーの役割と構造、そして最近のクルマのダンパー関連の最新事情を紹介します。

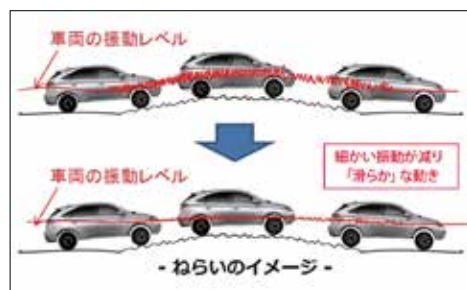


走りの質に大きく関わるのがダンパー

ダンパーは、サスペンションを構成する部品のひとつで、ショックアブソーバーとも呼ばれます。名前の通り、ショック（衝撃）をアブソープ（吸収）する役割を果たします。走行中の路面からの衝撃は、スプリングが受けとることで、車体や乗員へのダメージが軽減されます。しかし、スプリングは受けた衝撃で圧縮されますが、その後、反発で伸びてしまいます。もしも、ダンパーがないと、その勢いが消えるまで時間が必要で、その間、長時間、振動し続けることになります。しかし、ダンパーがあれば、スプリングの上下運動は短時間で吸収されてしまうのです。つまり、ダンパーがあることで、クルマの振動を短時間に抑えることができるのです。また、ブレーキや加速時に車体が前後に揺れるのを抑えるのもダンパーの役割です。グラグラせず、フラットな乗り心地の実現に、ダンパーは貢献しているのです。



路面の衝撃を受け止めたスプリングの上下の振動を短時間に抑えるのがダンパーの役割。



ダンパーが振動を抑えることで、デコボコの道を走るときの乗り心地が良くなります。

ダンパーを助ける他の部品たち

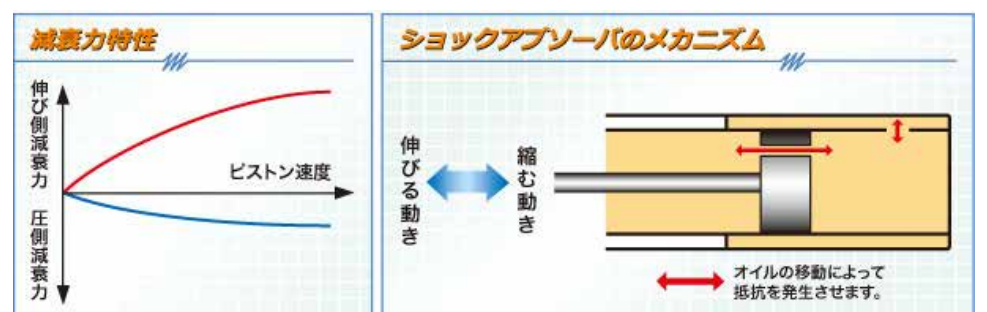
走行時の乗り心地を左右するのは、スプリングとダンパーだけではありません。他に、金属部品の微振動を吸収するためのゴム製品のブッシュ、それからダンパーが動き過ぎて破損するのを防ぐバンプストッパバーです。ブッシュは、ダンパーの端の車体との接点に使われています。ゴム製とはいえ、10年以上の耐久性を備えています。バンプストッパバーは、ダンパーのピストンの軸棒の先にある樹脂製の製品です。サスペンションに非常に大きな力がかかったり、ストロークが大きく動いたときに、その衝撃を受け止めます。鏡餅のような形状をしており、その樹脂の潰れ方も、乗り心地に表れます。



写真の上部、金色になっている部分がバンプストッパバーとなります。一番下の黒い部分がブッシュとなります。

オイルが狭いところを抜ける抵抗を利用

ダンパーは、筒状になっており、中にオイルが入っています。そのオイルの中には、上下に動くピストンが納められており、ピストンの先にはオイルを通す小さな穴が開けられています。ピストンが上下するときに、オイルはピストンの小さな穴を通して、上下に動きますが、そのときに抵抗力が生まれます。この抵抗力がダンパーの「減衰力」となります。減衰力とは、スプリングなどの振動を抑える力のこと。オイルを通す穴のサイズや経路などを工夫することで、減衰力を調整することが可能となります。また、ダンパーの減衰力は、動くスピードによっても変化します。端的に、ゆっくり押すと減衰力は弱く、早く押すと強くなります。走行状況で言えば、良好路面の目地を越えるときや曲がるときのロールは、ダンパーの動く速度が遅く、悪路走行では早くなります。



オイルが穴を通る抵抗が減衰力となります。減衰力は、ピストンの動く速度で変化します。

可変ダンパー&エアスプリングのメリット

もともとダンパーの減衰力は固定式が常識でした。しかし、近年になって走行状況によって減衰力を変更できるダンパーの採用が増えています。自動で減衰力を変更するタイプや、スイッチなどでドライバーが任意に変更できる“ドライブセレクト”方式などがあります。そんな可変ダンパーに、金属コイルのスプリングではなく、空気を使ったエアスプリング（いわゆるエアサスペンション）を組み合わせた製品も存在します。そのひとつがコンチネンタルGTなどに採用されている3チャンバーエアサスペンションです。この組み合わせは、ダンパーの減衰力だけでなく、スプリングの反発力も変更できるため、性能変化の度合いも大きなことが特徴です。しなやかな快適な乗り心地と、スポーティな走り味の両極を、それぞれに最適なセッティングで、しかも、より大きな差で実現することが可能となります。



ダイヤルひとつで、ダンパーとスプリングの特性を変化させ、スポーティさと快適さを両立することが可能となります。